



# UCS ファームウェア、HX Data Platform および VMware vSphere のアップグレード : 個別コンポーネントのアップグレード

- 
- [概要 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco HyperFlex Data Platform のアップグレード \(1 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Server Firmware のアップグレード \(3 ページ\)](#)
- [VMware vSphere/ESXi のアップグレード \(5 ページ\)](#)

## 概要

シスコでは、HyperFlex Connect からのフルスタック アップグレードを組み合わせ、これら 3つのコンポーネントをすべてアップグレードすることを推奨しています。一度に1つ、2つ、または3つすべてのコンポーネントをアップグレードできます。単一のアップグレードプロセスで2つ以上のコンポーネントを組み合わせる場合は、前の章で説明した手順に従います。それ以外の場合は、個々のコンポーネントのアップグレード手順を1つずつ実行します。

## Cisco HyperFlex Data Platform のアップグレード

### 始める前に

- 既存のクラスタを以前のリリースからアップグレードするための最新の *Cisco HX Data Platform* アップグレード バンドルを、[ソフトウェアのダウンロード](#) からダウンロードします。
- ストレージコントローラ VM でスナップショットスケジュールを無効にします。HyperFlex クラスタ IP に SSH 接続し、`stcli snapshot-schedule -disable snapshot schedule` コマンドを実行します。

ステップ1 HX Data Platform インストーラにログインします。

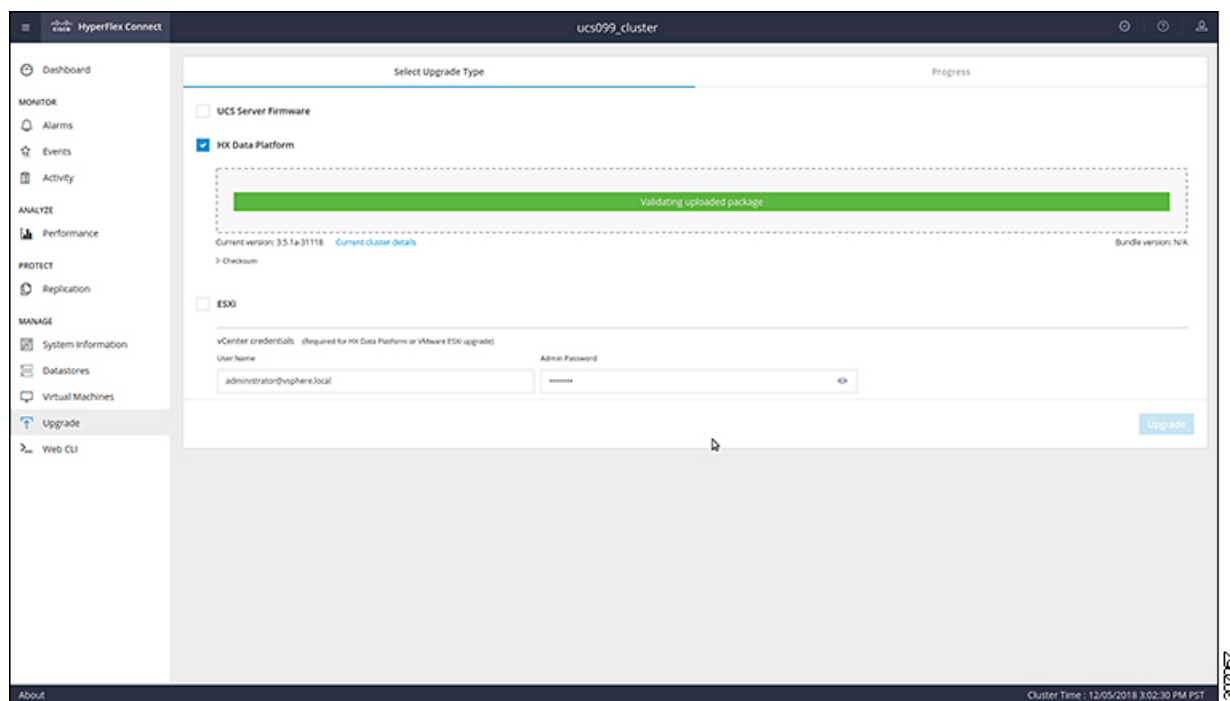
- a) 管理者ユーザのユーザ名とパスワードを入力します。
- b) **[Login]** をクリックします。

ステップ2 ナビゲーション ペインで、**[Upgrade]** を選択します。

ステップ3 **[Select Upgrade Type]** ページで **[HX Data Platform]** を選択し、次のフィールドの値を入力します。

UI 要素	基本的な情報
HX ファイルをここにドラッグするか、または <b>[参照]</b> をクリックします	以前の <i>release.tgz</i> を使用する既存のクラスタをアップグレードするための <i>Cisco HyperFlex Data Platform</i> アップグレードバンドルの最新パッケージファイルを、「 <a href="#">ソフトウェアのダウンロード - HyperFlex HX Data Platform</a> 」からアップロードします。 サンプル ファイル名の形式: <i>storfs-packages-4.5.1a-31601.tgz</i> 。
(オプション) <b>[チェックサム (Checksum)]</b> フィールド	<b>MD5</b> チェックサム番号は、 <b>[Cisco ソフトウェア ダウンロード (Cisco Software Download)]</b> セクションのファイル名にカーソルを合わせてホバーさせると表示されます。 このオプションステップは、アップロードされたアップグレードパッケージバンドルの整合性を検証するのに役立ちます。

図 1: **[Select Upgrade Type]** ページ



ステップ4 vCenter クレデンシャルを入力します。

UI 要素	基本的な情報
[ユーザ名 (User Name) ]フィールド	vCenter <管理者> ユーザ名を入力します。
[Admin Password] フィールド	vCenter <admin> パスワードを入力します。

**ステップ 5** [Upgrade] をクリックして、クラスタアップグレードプロセスを開始します。

**ステップ 6** [アップグレードの進行状況 (Upgrade Progress) ] ページの [Validation Screen] に、実行中の検査の進行状況が表示されます。検証エラーがある場合は修正します。

(注) この時点で、アップグレード前のすべてのチェックと検証が、最初のアップグレード段階とともに実行されます。数分以内に HX Connect が返され、アップグレードの確認と開始を求めるプロンプトが表示されます。両方の手順が UI で実行されるまで、アップグレードは完了しません。システムは、アップグレードの最初のステップのみが完了した状態のままにしないでください。

**ステップ 7** HyperFlex Connect の UI は、アップグレードの最初のステップの後に更新され、UCS および vCenter のクレデンシャルを入力してアップグレードプロセスの第 2 段階を開始するように求めるバナーがポップアップ表示されます。アップグレード ページをモニタし、アップグレードが完了したことを確認します。

アップグレードが進行中の時に、「**Websocket の接続が失敗しました**」というメッセージが表示される場合があります。自動更新が無効になりました。エラーメッセージを消去するには、ページの表示を更新するか、ログアウトしてからログインし直します。このエラーメッセージは問題なく無視することができます。

#### 次のタスク

アップグレードが完了したら、アップグレード後のタスクの **アップグレードが完了したことの確認** に進みます。アップグレードが失敗した場合は、アップグレードを再試行するか、Cisco TAC に連絡してサポートを受けてください。



(注) アップグレードの失敗後に修復なしでクラスタを実行することは推奨されません。アップグレードをできるだけ早く完全に完了するように、注意を払う必要があります。

## Cisco UCS Server Firmware のアップグレード

#### 始める前に

- UCS B シリーズおよび C シリーズ サーバのファームウェア パッケージがファブリック インターコネクタにダウンロードされていることを確認します。

- ストレージコントローラ VM でスナップショットスケジュールを無効にします。HyperFlex クラスタ IP に SSH 接続し、`stcli snapshot-schedule -disable snapshot schedule` コマンドを実行します。

ステップ 1 HX Connect にログインします。

- 管理者ユーザのユーザ名とパスワードを入力します。
- [Login]** をクリックします。

ステップ 2 ナビゲーション ペインで、**[Upgrade]** を選択します。

ステップ 3 **[アップグレードのタイプの選択 (Select Upgrade Type)]** ページで **[UCS サーバ ファームウェア (UCS Server Firmware)]** を選択し、次のフィールドの値を入力します。

フィールド	基本的な情報
<b>UCS Manager の接続</b>	
<b>UCS Manager FQDN/IP</b>	Cisco UCS Manager FQDN または IP アドレスを入力します。たとえば、10.193.211.120 とします。
<b>ユーザー名</b>	Cisco UCS Manager <admin> username を入力します。
<b>[管理パスワード (Admin Password)]</b>	Cisco UCS Manager <admin> パスワードを入力します。
<b>HX サーバ ファームウェア</b>	
<b>検出</b>	<b>[[検出 (Discover)]</b> をクリックして、現在の UCS ファームウェア パッケージバージョンを表示します。
<b>M5/M6 望ましいバージョン (クラスタ内のノードに応じます)</b>	適切な C シリーズ ファームウェア バージョンを選択します。 オプションで、クラスタにコンピューティングのみの B シリーズ UCS ブレードがある場合は、適切な B シリーズ ファームウェア バージョンを選択します。 UCS Manager にアップロードされた C & B バンドルのみがリストに表示されます。目的のバージョンが表示されていない場合は、 <a href="#">UCS インフラストラクチャ ファームウェア ワークフローのアップグレード</a> に戻ります。 互換性のあるファームウェア バージョンのみがドロップダウン リストに表示されます。目的のバージョンが表示されない場合は、 <a href="#">Cisco HyperFlex ソフトウェア要件と推奨事項</a> ドキュメントで HXDP とサーバー ファームウェア間の互換性を確認します。

ステップ 4 **[Upgrade]** をクリックして UCS ファームウェアのアップグレードプロセスを開始します。

ステップ5 [アップグレードの進行状況 (Upgrade Progress)] ページの [検証画面 (Validation Screen)] に、実行中の検査の進行状況が表示されます。検証エラーがある場合は修正します。アップグレードページをモニタし、アップグレードが完了したことを確認します。

アップグレードが進行中の時に、「Websocket の接続が失敗しました」というメッセージが表示される場合があります。自動更新が無効になりました。エラーメッセージを消去するには、ページの表示を更新するか、ログアウトしてからログインし直します。このエラーメッセージは問題なく無視することができます。

(注) UCS Manager でサーバを手動で確認応答しないでください。サーバが pending-ack 状態になる間は、管理者が手動で介入することはできません。HyperFlex プラットフォームは、各サーバを正しい時間に自動的に確認応答します。

## VMware vSphere/ESXi のアップグレード



**重要** VMware アップデート マネージャ (VUM) または、VMware ライフサイクル マネージャ (vLCM) を使用して HyperFlex ノード上で ESXi をアップグレードすることはサポートされていません。これらのアップグレードメソッドを使用することは、Cisco カスタムドライバの削除とクラスタ停止を引き起こす場合があります。VMware のセキュリティパッチまたは、ESXCLI コマンドと一緒にオフライン zip バンドルの手動のインストールを含む ESXi アップグレードは、Cisco Intersight または、HyperFlex 接続の使用を推奨します。

次の手順に従って、HyperFlex Connect から VMware ESXi のみをアップグレードします。この手順は、ESXi パッチのアップグレードにも適用できます。

アップグレードでは、次のタスクをこの順序で実行する必要があります。

- HXDP、UCS、および VMware のソフトウェアの互換性については、リリースドキュメントを参照し、アップグレードする前に vCenter がアップグレードされていることを確認してください。詳細については、使用するリリースの [Cisco HX データ プラットフォームのリリースノート](#)、[Cisco HyperFlex 推奨ソフトウェア リリースおよび要件ガイド](#)、および [VMware 製品相互運用性マトリクス](#) を参照してください。
- 管理者権限を使用して HX Connect にログインし、アップグレードページに移動します。

### 始める前に

適切な HX カスタム ESXi オフラインアップグレードバンドルをダウンロードします。詳細については、[ソフトウェアのダウンロード](#) を参照してください。シスコでは、非 HX カスタマイズ ESXi バンドルの使用は推奨していませんが、サポートされています。HX カスタマイズバンドルを使用すると、すべての最新ドライバが更新され、HyperFlex ハードウェアとの互換性が確保されます。

- 
- ステップ 1** 管理者権限で、HX Connect にログインしてください。
- ステップ 2** [システム情報 (System Information)] タブに移動し、実行中のハイパーバイザのバージョンを確認します。
- ステップ 3** [アップグレード (Upgrade)] タブをクリックし、[ESXi] を選択します。
- ステップ 4** バンドルバージョンウィンドウ内をクリックし、以前に保存した ESXi オフラインバンドルに移動して、**[開く (Open)]** をクリックします。
- ステップ 5** バンドルがアップロードされたら、vCenter クレデンシャルを入力し、**[アップグレード (Upgrade)]** をクリックします。
- (注) アップグレードプロセスは中断せず、一度に 1 台のサーバをアップグレードします。
- ステップ 6** ブラウザ画面を更新して、[ダッシュボード (Dashboard)] タブにアップグレードの変更を表示します。
- (注) [システム情報 (System Information)] タブをクリックして、すべてのノードがオンラインであることを確認します。
-

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。